



祭り復活へ！

～復活に向けた地域住民の想い～

下大ケ生地域では、古くから毎年お盆の時期になると、夏祭りが地元の寺（瀧源寺）で行われていました。

しかし、予算や人手不足、瀧源寺の火事など、さまざまな事情から、毎年恒例だった夏祭りは、平成20年を最後に行われなくなりました。その後は、復活の目途が立つことなく、月日が流れていました。

それから10年目を向かえた今年、地元青年部を中心とした地域住民から、「夏祭りを復活しよう」という声があがりました。

地域の夏の風物詩である祭りがなくなったことへの寂しさと、夏にみんなが集まって賑やかに楽しむ機会があってもいいのではという想いが、心の底にあったそうです。

また、地域おこし協力隊の池内絵美さんが、平成29年度に大ケ生地域に着任したことも、後押しとなりました。

「大ケ生地域を盛り上げたい」という住民の皆さんと池内さんの想いが重なって、今年、夏祭りの復活に向けて動き出しました。

祭りの復活に向けて・・・

10年のブランクと向き合う実行委員たち

8月5日（日）城内集落センターで、実行委員9人による最終打ち合わせが行われました。

19時から21時過ぎまでという遅い時間帯にもかかわらず、実行委員の皆さんは疲れた様子を見せることなく、当日の進行や構成を調整したり、互いの役割分担や連絡事項を確認しあったりするなど、準備に余念がありませんでした。

10年ぶりということもあり、本番の様子がイメージし難いところもあったほか、当時とは住民の人数や年齢層、環境も変化しているため、見直しが必要な部分もありました。

「準備は足りているだろうか」、「どのくらいの人に参加してくれるだろうか」、「進行の順番や時間配分は大丈夫だろうか」、「みんな退屈しないだろうか」など、実行委員の皆さんが頭を悩ませる場面もありました。

しかし、話し合いは停滞することなく、当時の記憶を辿ったり、過去の資料を確認しながら、活発に意見交換が行われ、不安要素を1つずつ解消する中で、時には笑いもあり、終始和気あいあいとした雰囲気で行進することができました。

地域のため、住民のために祭りを成功させたいという、実行委員の皆さんの真剣な想いが伝わってきました。



実行委員の皆さん

大ケ生(おおがゆう)地域

大ケ生地域は、乙部地区の南東部に位置し、大ケ生三山（黒森山、朝島山、鬼ヶ瀬山）の裾野に広がる自然豊かな中山間地域です。

また、同地域には、上大ケ生自治公民館と下大ケ生町内会があり、それぞれの地域活動に取り組んでいるほか、黒森山登山道の整備を合同で行うなど、大ケ生の地域づくりを進めています。

いよいよ本番 8月14日(火)18時～瀧源寺にて

この日は晴天に恵まれ、絶好の夏祭り日和でした。日中の最高気温32度という猛暑にもかかわらず、実行委員の皆さんは、午前中から買出しや機材運搬、やぐらの組立などの準備に汗を流しました。

開始前、準備担当の方が「人集まるかな」とつぶやいていましたが、その心配をよそに、開始時間になると、地域の子どもたちや家族連れの方々が徐々に瀧源寺へ集まってきました。

18時半からは、大ケ生地域の郷土芸能の一つである「城内さんさ踊り」が始まりました。

踊るも自由、観るも自由。一帯に響き渡る太鼓や笛の音色が祭りを盛り上げるなど、集まった皆さんの顔には笑みがこぼれていました。祭りを見ていた地元の方が、「今日は賑やかでいいねえ」と嬉しそうに話をしていました。



準備の様子

打ち合わせでは、焼きそばの味つけや値段設定にも悩みましたが、屋台も盛況でした。



盆踊りの様子

祭りを終えての感想

実行委員長 下屋敷剛さん

今回夏祭りを開催するにあたり、地域の皆様からたくさんのご協力を頂きました。

反省点は多々ありますが、お陰様で久しぶりに地域の皆様やそのご家族が集い、賑やかな場になり、楽しい時間となりました。

地域おこし協力隊 池内さん Information

大ケ生ミョウガ商品開発中

大ケ生地域には、ミョウガ農家さんが多くいます。現在、農家さんの力を借りて、ミョウガ商品の開発を進めています。

大ケ生地域には、アイデアが豊富な人、行動力がある人、調べることが好きな人、営業の仕事が得意な人、料理が上手い人、広報が上手い人など、様々な得意分野を持つ人がいて、力を出し合いミョウガと向き合っています。

まずは「お煎餅」に挑戦中！ 試行錯誤が楽しい日々です。ミョウガを通じて、様々な人が地域と向き合い、今後の大ケ生をつくっていきけるよう、これからも挑戦を続けていきたいと思っています。



池内絵美さん

地域おこし協力隊とは

総務省が推進する制度で、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱し、地域おこしの支援や地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組です。盛岡市では、現在9人の協力隊が着任しています。協力隊の活動の様子は、盛岡市フェイスブックで随時、紹介しています。